QOL向上を目指す専門職間連携教育用教材

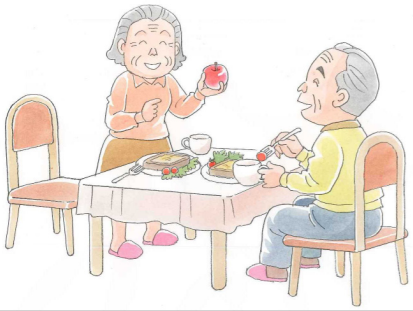
# 在宅高齢者における
# レビー小体型認知症のケア

1

大都市郊外のB市の団地で一人暮らしをしているAさんは75歳で、身長165㎝、体重68kgの男性です。（BMI 25.0）

若くして奥様を亡くしましたが、60歳の定年退職まで、病気になることもなく証券会社に勤務しました。現在は無職で、年金で生活しています。趣味は、囲碁と将棋ですが、もう何年もやっていません。

2



Aさんは、一人暮らしですが、近くに79歳になる姉が住んでいます。以前から互いの家を訪ねて食事をしたりしています。

Aさんには、この姉以外に家族や親戚は居ません。

3

70歳の頃（5年前）
　気持ちが落ち込んで、何もやる気がなくなり、自宅近くのメンタルクリニックを受診したところ、うつ病の治療薬を服用することになりました。その数ヵ月後には、うつ病の症状が少し和らぎ、いつの間にかクリニックには行かなくなってしまいました。

4

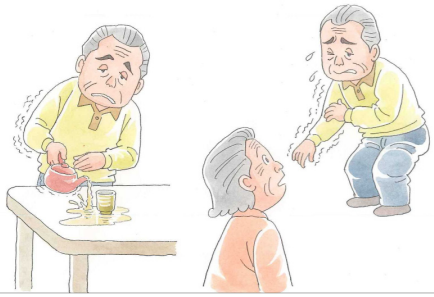
72歳の頃（3年前）

　旅行先の旅館で寝ているときに「夜にお化けが出た」と言ったことがありました。

5

73歳の頃（2年前）
　「若い人が部屋に入ってくる」「子供たちが部屋に遊びに来る」といった訴えが聞かれるようになりました。姉が「私には、そんな人は見えない」と言うと、「おかしいなあ」「錯覚かなあ」と繰り返し、「頭がおかしくなったのかもしれない」「痴呆症になったかもしれない」と言っていたそうです。

6



74歳のとき（1年前）①

再び気持ちの落ち込みが強くなり、それと共に、

・立ったり歩いたりする時に前傾姿勢になっている
・動作が鈍く、以前に比べると体の動きがゆっくり
・何もしていない時でも、右手から二の腕にかけて震えがある
・急須の蓋を閉める時に落としたり、お茶を注ぐ時にこぼしたりしている

ことなどに姉が気付きました。

7

74歳のとき（1年前）②

物忘れが目立つようになったのですが、姉に「明後日、また来てくれるんだろ、その時にお菓子を買ってきてくれないか」と言ってみたかと思うと、食事をして一、二時間経った後に「次は、いつ来てくれるんだ」と言ったりするような、物忘れの症状の強さが時間によって変わるもので、人の話もよく理解できている時と、理解できていない時がありました。また、日によっても、もの忘れの程度は変動し、しっかりしている時と、ボーっとしていたり、とんちんかんになってしまう時がありました。

8

74歳のとき（1年前）③

食事中に時々、むせることがあるのですが、去年までは、むせることはなかったということです。また、立ったときにふらつきがあり、本人に聞くと、立ちくらみをするようだと言っています。

9

現在（75歳）
　居ない人が見えたり、物忘れや動作が鈍いことを心配した姉のすすめで、以前、Aさんが風邪を引いたときにかかっていた内科の診療所を先日たずねました。
　その結果、物忘れは認知症の可能性があるので、認知症の薬を飲んだ方がいいだろうと言われ薬を飲み始めました。

10

■ 所見
- 幻視、錯視（疑い）
- 記憶障害（近接記憶の障害、エピソード記憶の障害）
- 理解力・判断力の低下
- 認知機能・運動機能の動揺性経過
- パーキンソン症候（前傾姿勢、動作緩慢、安静時振戦）
- 自律神経症状（起立性低血圧）、嚥下障害

■ 診断名
- レビー小体型認知症

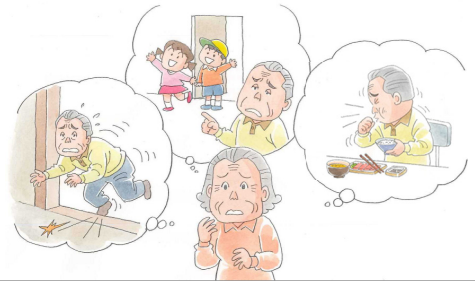
医学的な所見と診断名は、スライドのようになっています。

11

■ 処方内容
- 抗うつ薬（パロキセチン）
- アルツハイマー病治療薬（ドネペジル塩酸塩）

処方の内容は、スライドのようになっています。

12



姉は、次のようなことを心配しています。

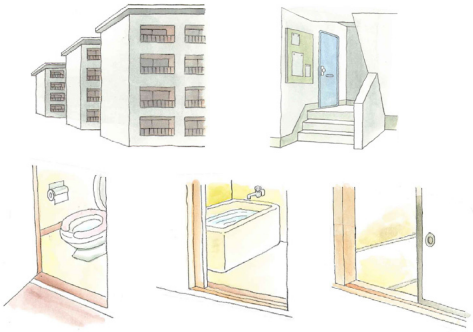
1. 症状は時間や日によって変わる、もの忘れの出現、理解力・判断力の低下。
2. 幻視がみられるための精神的不安定。
3. 転倒の危険性。
4. 誤嚥の危険性。

面倒をみられるのは、姉しか居ないのですが、弟を助けたくても体がいうことをきかなくなっています。

13

Aさんも、姉も年金で生活しています。現在、福祉制度は、利用していません。介護保険制度の利用を医師から勧められましたが、詳しい説明はありませんでした。

14



B市は、大都市の郊外にある人口60万人ほどの市です。Aさんは、団地の1階に住んでいますが、家屋の改造や介護用機器の導入は、行っていません。

15

QOL向上を目指す専門職間連携教育用教材

# 在宅高齢者における
# レビー小体型認知症のケア

制作著作　Copyright © 2012
「QOL向上を目指す専門職間連携教育用モジュール中心型カリキュラムの共同開発と実践」
（文部科学省 平成21年度 戦略的大学連携支援事業採択事業）
新潟医療福祉大学・埼玉県立大学・札幌医科大学・首都大学東京・日本社会事業大学

原案　Portions Copyright © 2012
繁田雅弘（首都大学東京）

16